

鉄道の安全・安心を担う人づくり（1）

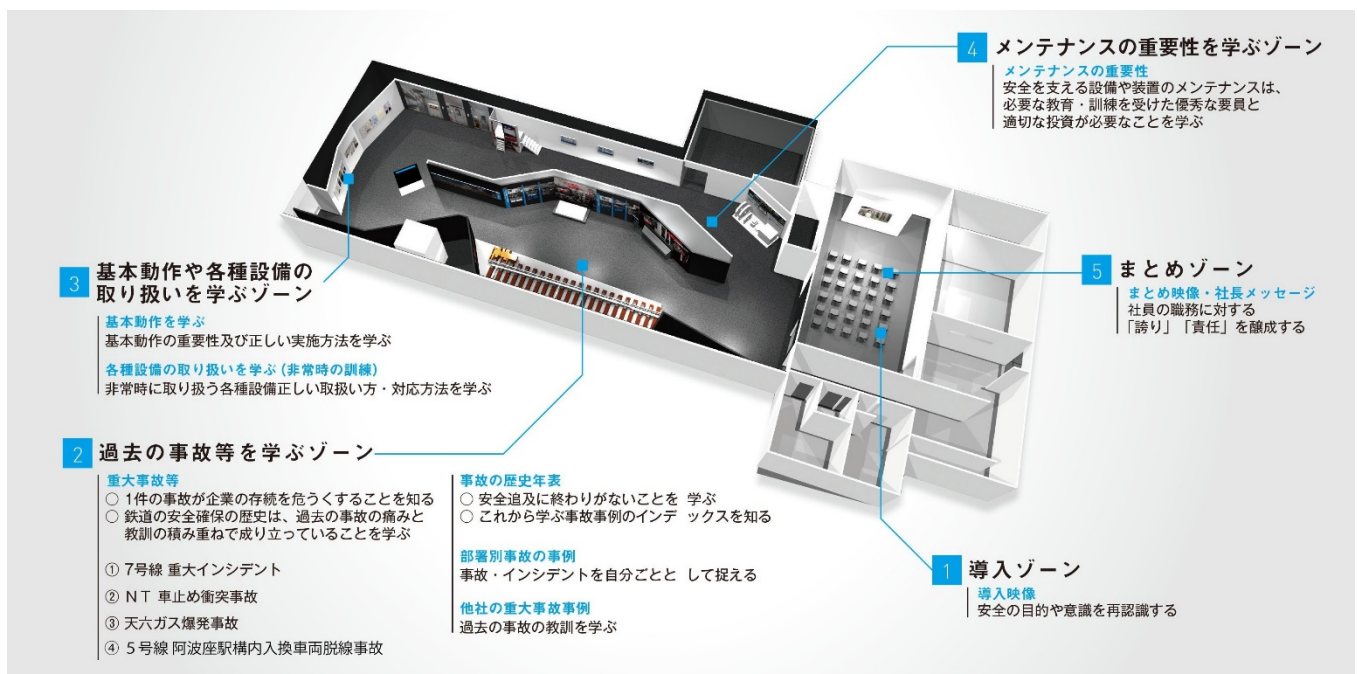
地下鉄・ニュートラムの安全・安心は、社員一人ひとりの意識・行動のもとに確保されています。その意識・行動を育むために、Osaka Metroでは人づくりに力を入れています。

全社員への安全研修

全ての社員が、職種を越えた研修を通じて自分たちに「何が必要なのか」、「何をしなければならないのか」を考える研修を体験型・机上型で行っています。

体験型研修

輸送の生命館（安全研修施設）において、過去に発生した事故やトラブルの疑似体験を行い、その原因や背景、現在定められているルールや取扱いが何のためにあるのかを学び、同様の事故等を繰り返さないという意識を高める研修を行っています。



机上型研修

鉄道事業を安全に運営するための基礎的な知識や事例を基に事故等の予防策を考えるなどして、気づく力、考える力及び行動することの重要性を学ぶ研修を行っています。

2018年度は以下の内容で、机上型研修として実施しました。

- 新たに制定された安全方針についてその意義と精神の理解を浸透させる。
- 他者に的確に伝える力（伝達力）の重要性と能力を伸ばすため、鉄道事故をもとにした事例研修（グループ討議）。
- 鉄道会社の社員として当然身に付けておくべきことをまとめた「鉄道パーソンの心得」を用いた研修。



| 専門研修（1）

運転士の養成・訓練

お客さまに最前線で安全を提供する立場にある運転士は、身体的・精神的な資質のほかにさまざまな知識・技術の習得が必要です。

国土交通省から指定された動力車操縦者養成所において、専属の教師が自身の経験などを含めた幅広い教育を行うとともに、実際の線区における指導操縦者による細やかな電車の操縦訓練により、安全意識の高い運転士の養成に努めています。



運転士の異常時対応力を高める訓練

故障や災害など、通常では発生させることが困難な事象への適切な対応力を高めるため、各乗務所に設置した運転シミュレータ装置により随時、訓練を行っています。



駅係員による信号故障時の対応訓練

輸送指令所から駅の信号機を遠隔制御できなかつた場合に備えて、当該駅の信号制御装置を操作して電車の安全運行を確保する訓練を行っています。

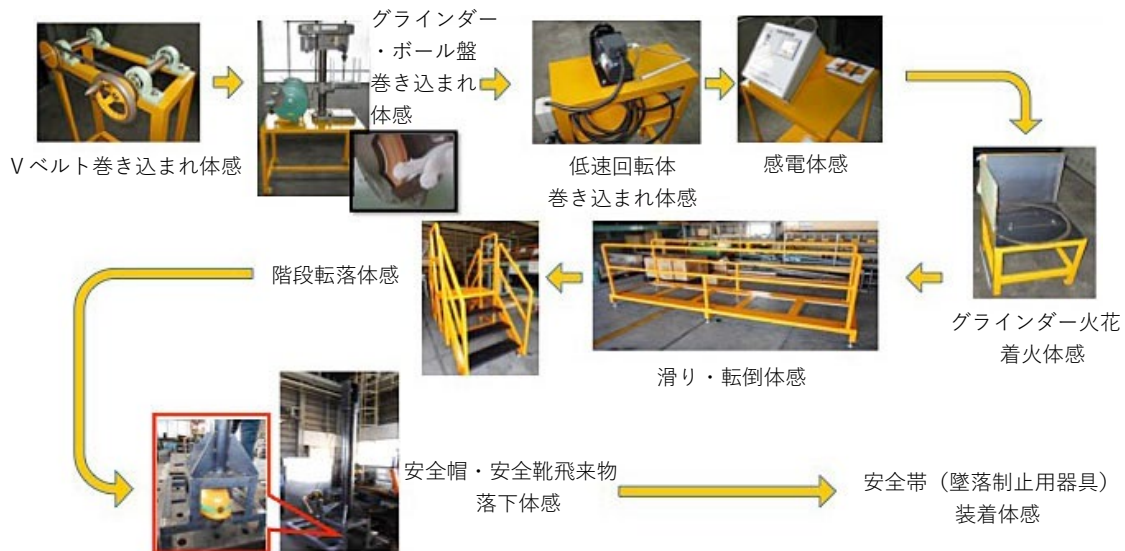


鉄道の安全・安心を担う人づくり（2）

| 専門研修（2）

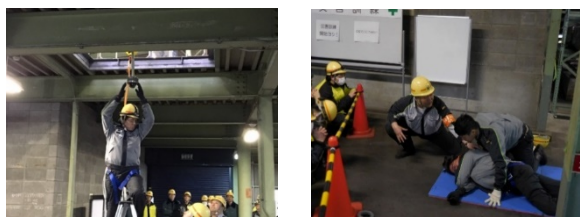
労働災害体感研修

労働災害に対する教育は、机上研修では臨場感がなく、災害時の本当の怖さを伝えきれないことから、安全に対する意識を高めるため、危険体感施設（実際に危険を体感できる施設）の開設を進めています。



電気部

保守作業中に事故が発生し、作業員が負傷した場合の救護と迅速な行動がとれるように「災害を想定した訓練」を実施しています。



車両部

人材育成の一環として、車両助役が部下への研修講師を行うことにより、指導者としての技量の向上を図っています。直属の上司が講師を務めることで、現場作業に対し、より密接な研修を実施しています。



工務部

経験の浅い若手社員を対象にプロジェクトチームを作り、レール交換など保線技術の向上を図るとともに、中堅社員が細やかに指導することにより、指導力の向上を図っています。



建築部

「自ら考え行動できる人材育成」を目標に、テーマを変えて定期的に技術研修を行い、社員一人ひとりの知識・技術・技能を向上させています。



| コンテストを通じた情報共有・技術研鑽の場の提供

研修・訓練で多くの知識や技能をインプットするだけでなく、コンテストを通じてアウトプットすることで知識や技能の定着化、社員間のコミュニケーション活発化を図り、安全・安心の更なる向上に努めています。また、表彰を行うことで、個々人のモチベーションの向上も目指しています。

運転技能競技会

乗務所ごとに選抜された運転士で運転技能及び知識を競う競技会です。優良乗務員を表彰することで、士気の高揚及び運転技術の向上を目指しています。



電気技能発表会

電気保守は、鉄道の安全に欠かすことのできない重要な業務です。その安全を担っている第一線の社員が日頃の業務を披露し、より質の高い保守作業の在り方について参加者相互で再確認し、さらなる技能の向上を目指しています。



保線K Y T大会

保線管理事務所の保守区ごとに作業に潜む危険を発見、把握、解決する「K Y T（危険予知訓練）活動」を実践、発表する競技会です。危険に対する感受性や問題解決能力の向上と表彰による士気の高揚を目指しています。



工事安全大会

電気工事については、施工実績が豊富な受注者とディスカッションを行い、受注者間との情報共有を図り、事故・障害・故障等の軽減についての気づきに役立てることを目的とし、安全大会を実施し安全・安心な施工を目指しています。

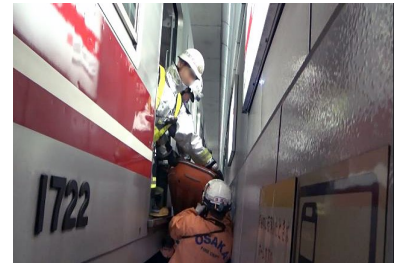
その他、正確な情報伝達を目的とした車内放送コンテストや、無事故など安全への取り組みを評価した表彰などを行っています。なお、安全への取り組みに対する表彰は、社員に限らず取引先に対しても行っており、サプライチェーンを通じた安全意識の向上にも努めています。

鉄道の安全・安心を担う人づくり（3）

事故への対応訓練

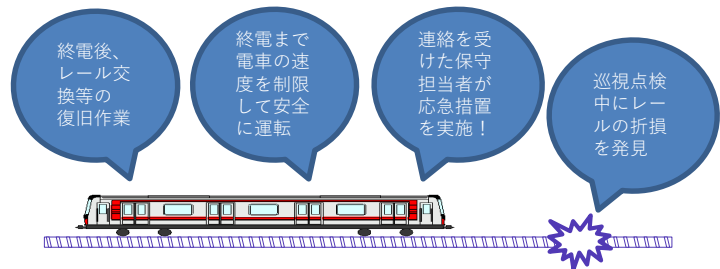
鉄道人身事故への訓練

鉄道人身事故が発生した場合には一刻も早く負傷者を救助することが重要です。最寄りの消防局（レスキュー隊）と合同で救助訓練を行っています。



営業時間中のレール損傷への応急対応訓練

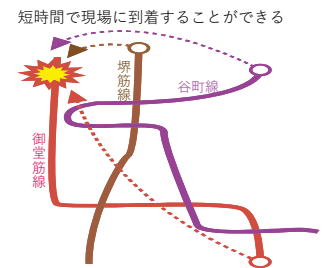
営業時間中にレールの折損などが発生した場合でも電車を安全に走行させるため、安全かつ迅速に応急処理器を設置する訓練をはじめ、さまざまな事象を想定した訓練に取り組んでいます。



脱線・車輪不回転時を想定した訓練

電車が脱線した場合や車輪が回転しなくなった場合を想定し、車体を持ち上げてレールに戻す訓練や、車両搬送訓練を行っています。

また、異常時の対応については、担当路線に関わらず最寄りの基地から出動するようにし、迅速な初動対応に努めています。



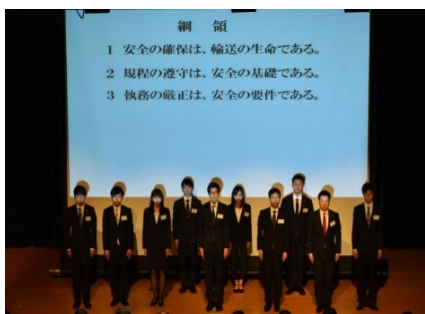
情報伝達訓練

事前に訓練内容を知らせないブラインド方式の情報伝達訓練を行うなど、日頃から危機管理意識の向上に取り組んでいます。

安全に関する取組み発表会

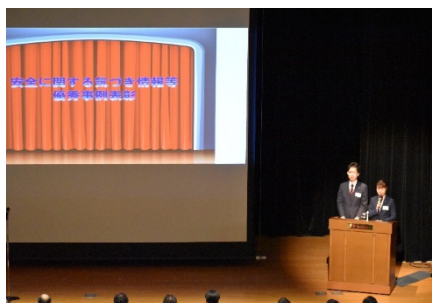
Osaka Metro Group全体の安全意識の向上と発表者やその所属の業務に対するモチベーションアップを図るため、2011年度から安全に関する取組み発表会を実施しています。

2018年度（第8回）は、鉄道事業本部内の駅務部・運転部・電気部・車両部・工務部・建築部及び大阪シティバス(株)で予選会を実施（46グループ）し、本選には7グループが出場しました。



安全に関する気づき情報等優秀事例表彰

Osaka Metro社員の全員参加による安全意識のさらなる向上及び職場環境の改善を図るとともに、安全輸送の更なる向上を目的として、事故の芽情報（ヒヤリハット、社員の気づき）に基づいて防止対策を実施し、安全確保に顕著な貢献があったと認められる社員もしくは事業所に対し表彰を行っています。



安全講演会

安全講演会は、ニュートラム車止め衝突事故を教訓とし、二度と同じ事故を繰り返さないよう、運輸部門と保守部門が一体となり、安全運行並びに事故防止の強化の取組みの一環として地下鉄・ニュートラム安全運行強化週間（毎年10月5日～11日）の機会に開催しています。

